

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 20 年 3 月 27 日 (2008.3.27)

【公表番号】特表 2007-529855 (P2007-529855A)  
 【公表日】平成 19 年 10 月 25 日 (2007.10.25)  
 【年通号数】公開・登録公報 2007-041  
 【出願番号】特願 2007-503187 (P2007-503187)  
 【国際特許分類】

H 0 1 M 8/02 (2006.01)  
 C 2 2 C 38/00 (2006.01)  
 C 2 2 C 38/18 (2006.01)  
 C 2 2 C 38/38 (2006.01)  
 C 2 3 C 26/00 (2006.01)  
 H 0 1 M 8/12 (2006.01)

【F I】

H 0 1 M 8/02 Y  
 C 2 2 C 38/00 3 0 2 Z  
 C 2 2 C 38/18  
 C 2 2 C 38/38  
 C 2 3 C 26/00 C  
 H 0 1 M 8/12

【手続補正書】  
 【提出日】平成 20 年 2 月 7 日 (2008.2.7)

【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】請求項 1 1  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【請求項 1 1】

請求項 6 ~ 1 0 のいずれか一つに記載の鋼 - セラミック複合体を高温型燃料電池で使用する  
 方法。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】請求項 1 2  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【請求項 1 2】

請求項 6 ~ 1 0 に記載の鋼 - セラミック複合体を高温型燃料電池スタックで使用する方  
 法。

【手続補正 3】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 2 0  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 2 0】

この粉末自体はインタコネクタの上に懸濁物またはペーストの状態で適用する。この目  
 的に適する方法、例えば粉末スプレー法またはドクターブレードまたはローラー塗工が従  
 来技術から公知である。塗工される懸濁物またはペーストに適する層厚さは 2 0 ~ 1 0 0

$\mu\text{m}$ の範囲内にある。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

かゝる銅 - セラミック複合体(1)、即ち $\text{Fe}_{22}\text{CrMn} - \text{La}_{0.8}\text{Sr}_{0.2}\text{Mn}_{0.5}\text{Co}_{0.5}\text{O}_3$  - 複合体での結果を図1に示す。この複合体は測定開始時に非常に少ない抵抗 $R_0 = 0.008 \text{ cm}^2$ を示した。全測定期間の間に抵抗は $0.002 \text{ cm}^2 / 1000 \text{ h}$ しか変化せず、従って極めて安定している。